

令和5年6月12日（令和5(2023)年度第15号）



全国保育士会委員ニュース

本ニュースは、全国保育士会委員、顧問、監事、都道府県・指定都市保育士会事務局に送付しています。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国保育士会事務局

〒100-8980

千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-6503

FAX 03-3581-6509

Mail hoikushikai@shakyo.or.jp

<https://www.z-hoikushikai.com>

<ニュースの内容>

■ 「食育調査会」（自民党）が開催される ～全国保育士会における食育の取り組みを報告～

■ 「食育調査会」（自民党）が開催される ～全国保育士会における食育の取り組みを報告～

令和5年6月7日、「食育調査会」（自民党）が自民党本部で開かれ、全国保育士会における食育の取り組みについて村松会長が説明を行いました。

食育調査会（会長・土屋品子衆議院議員）は食育についてさまざまな政策課題を議論する場です。村松会長は本会の食育の取り組みについて報告する中で、給食の外部搬入について、本会の考え方を説明しました。

【外部搬入にかかる村松会長の発言主旨】

- 本会は、「子ども一人ひとりの発達や健康状態等に合った食事を提供できる」、「食育活動を促進できる」等の点から、自園調理の優位性を主張している。
- 平成10年に、すべての保育所における調理の業務委託が可能になって以降、段階的に規制が緩和されており、現在、特区において容認されている公立保育所における3歳未満児への給食外部搬入の全国展開が検討されている。
- しかし、食は、子どもの生命の維持、発育には欠かせないものであり、心身の成長に大きくつながっている。子どもへの食事提供の意義をふまえれば、保育所、認定



資料説明をおこなう村松会長



食育調査会長の土屋品子衆議院議員(右)
食育調査会事務局の今枝宗一郎衆議院議員(左)

こども園の調理業務が、利便性や効率性、経済的優位性などと引き換えに、子どもたちの適切な成長・発達を妨げるような制度改定は想定できない。

- そのため、全国保育士会は、外部搬入断固反対の姿勢を示し続けるとともに、引き続き自園調理の優位性を発信する取り組みを行っていく。

また、友納りお参議院議員から保育所・認定こども園でのアレルギー対応について質問があり、村松会長からは、アレルギー対応は保育所・認定こども園では日々緊張感をもって、対応していること、また個々の園児のアレルギー対応を行うことも保育者の専門性であること、さらに、すべての園に栄養士が配置されていれば、よりきめ細かな対応が可能であると回答しました。

全国保育士会では、食育を「保育の一環」ととらえ、保育所・認定こども園等における食育に関するさまざまな実践を言語化するため『子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育の言語化」～』を作成しています。また、自園調理の優位性を説明したパンフレット『食べることは生きること』を作成しています。

『食育の言語化』、『食べることは生きること』をご覧ください、あらためて食育について考えるきっかけとなれば幸いです。なお、上述の成果物は全国保育士会ホームページからダウンロードすることができます。

子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育」の言語化～



乳幼児期の食事は子どもたちの生活のすべてを支える大切な柱の一つであり、食べることで体が子どもの発達や保育の基盤です。

そのため、保育所・認定こども園（以下、保育所等）で行われている毎日の保育のすべてが食育につながるものであり、食事は「生きる力の基礎を育むうえで大切なもの」、「空腹を満たすだけでなく信頼関係の基礎をつくる営み」、「生涯を通じた影響を及ぼすもの」です。

また、保育所等における食育の推進は、「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」において求められているものです。

食育はそうした重要な取り組みであるにもかかわらず、これまで、保育所等においてなぜ食育に取り組んでいるのかといったことや、その必要性については、根拠や理論に基づいた整理はされていませんでした。

そこで、全国保育士会では、乳幼児期の食育、そして保育所等における食育の重要性について、保育所等で取り組んでいる一つ一つの活動を整理、言語化し、『子どもの育ちを支える食』を作成しました。


保育所等における食育について、保育者が自身の取り組みを他者に説明する際のツール、保護者や地域への発信する際のツールとしてご活用ください。

下記よりダウンロードいただけます。

子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育」の言語化～

⇒全国保育士会ホームページより抜粋

自園調理の優位性を発信するためのパンフレット「食べることは生きること」



全国保育士会では、「子ども一人ひとりの発達や健康状態等に合った食事を提供できる」、「活動を促進できる」等の点から、自園調理の優位性を主張し続けています。

その一環として、平成28年にパンフレット「食べることは生きること」を作成しました（平成29年一部改訂）。

本パンフレットは、平成27年度に本会が実施した「食事の提供体制と食育に関する調査※」から導き出された5つの「自園調理の優位性」を簡潔に整理しています。

食は、子どもの生命や発育に欠かせないものです。生きる力の基礎を育む食育の重要性に対する理解を深め、自園調理の優位性を、保育関係者のみならず、地域住民や保護者に発信するツールとして、ぜひ、ご活用ください。

下記よりダウンロードいただけます。

※全国9市区町村（327園回答）で実施

『食べることは生きること』
食事の提供は、子どもたちの健やかな心と身体の成長を支える「自園調理」で

【全国保育士会ホームページ】

トップページ > 発行書籍・パンフレット等のご案内 > パンフレット・報告書・チラシ

<https://www.z-hoikushikai.com/>